

# ゆめ わらゆ 夢 食堂

菅波 茂

昨年12月23日、岡山市北区の岡山国際交流センター7階で「AMD A子ども食堂支援プラットフォーム」の設立フォーラムが開催された。プラットフォームが主催された。プラットフォームの設立フォーラムは貧困家庭に暮らすトフォーム代表世話人の友実武則・赤警市長が開会のあいさつをし、続いて「子ども食堂の支援と役割」についてフォーラムがあった。

日本の子どもの6人に1人は貧困家庭に暮らすと言われている状況の中、子ども食堂の必要性と役割、子ども食堂や利用する子どもたちへの具体的支援を討議した。制限がある中で支援できることの具現化を当プラットフォームの役割と結論付けた。今年中のできるだけ早期の活動開始を予定している。

司会は筆者が務め、パネリストは友実市長、直島克樹・川崎医療福祉大講師、沖陽子・県立大副学長、松田久・岡山経済同友会代表幹事、高橋邦彰・岡山商工会議所専務理事ら多くの方々からも意見をいただいた。直島氏によるまとめと展望に続いて、田原隆雄・備前市長が閉会のあいさつを

## 子ども食堂支援プラットフォーム



岡山市内で開かれたAMD A子ども食堂支援プラットフォームの設立フォーラム

よる社会参加の機会の提供③子どもたちにボランティア活動を提供——。今後、世界的に経済社会的な大変化が起こる中で、貧困の問題に対処する必要がある。一番の問題は子どもたちと社会との接点の接点の確保である。社会との接点を確保する機会が必要である。同時にAMD Aが大切に

している理由である。AMD Aはアジアの災害医療だけではなく、貧困問題にも取り組んできている。スリランカの山の中にあるマタレ市での経験を紹介する。昼食としてご飯の上に2立方センチメートルの鶏肉が一切れ。中学生の子どもたちはごちそうだと声を上げた。一方、子どもたちと親の関係、さらにコミュニティの関係は非常にしっかりしていた。子どもたちの社会的な位置付けも明確。貧しいなりにほのぼの感があふれていたのが印象的だった。

AMD Aマタレクラブを子どもたちの親らによって設立し、自宅の庭先で鶏を、動物性たんぱく質の摂取の方法として飼育する小規模融資を計画。ただし、小規模融資には参加者の団結力が不可欠である。

モンゴルは仏教国である。ガンダン寺は総本山。3年前から少年僧たちにガンダン寺ロータスプログラムとして学用品や衣類などを贈答してきた。今年少年僧の数が200人から250人に増えている。国がデフォルト寸前で国際通貨基金（IMF）の指導を受けているとのこと。彼らの半分が親の貧困のために僧になっている。日課は朝5時から午後5時まで勉強と修行である。

今年彼らが夢を描いた紙をお礼にもらった。「おなかいっぱい食べたーい！」。夢が紹介された時には少年僧全員が大きな拍手をした。今年からの支援内容を食糧に決定した。AMD Aモンゴル支部にもモンゴルの企業や市民から寄付を集めてもらうことにした。

次世代育成への新たな取り組みに皆様の理解と温かい支援をお願いしたい。

(AMD Aグループ代表)